

私の声で、少しでも多くの方に 「元気」をお届けしたい。

ラジオ・パーソナリティー

前田明日香 さん

創価女子短期大学
英語科卒業

「新しい世紀を切り拓くのは、深い教養のある、聡明な女性リーダーである」との理念で設立された創価女子短期大学は、二〇〇五年に創立二十周年を迎えました。開学以来、毎年就職率はほぼ100%の高さを誇り、卒業生は、金融、保険、商社、旅行、マスコミ等、さまざまな分野で幅広く活躍しています。

「ハッロー！」

毎週金曜日の正午になると、明るく澄んだ声がラジオから流れてくる。石川県金沢市に本社がある県域FMラジオ局・エフエム石川の「ウィークエンド・スクエア」でパーソナリティーをつとめる前田明日香さんの声だ。「声に笑顔が見える」と、二〇代〜三〇代の世代に人気が高い。

「最初は何もわからず、失敗ばかりしてました」

創価女子短期大学英語科(現・英語コミュニケーション学科)を卒業後、故郷の金沢に戻り、その英語力を活かして国際交流のボランティアなどにかかわるうち、ラジオの仕事を手伝うようになった。フリーでやっているこうと決めて六年目、「ウィークエンド・スクエア」のほかにレギュラー番組を四本もち、CMのナレーターやイベントの司会などでも活躍する前田さんが、番組をはじめめるまでは、アウンサーとしてのトレーニングを受けたこともなく、まったくの素人だった。

「イベントなどの司会をしていくと、昔から私の番組を聴いてくださっていた方に声をかけられることも多いんです。みなさん、あのころは本当に下手だったと笑っておっしゃるんですよ」



今はラジオのことで頭がいっぱいだというが、短大時代は英会話に没頭した。「英会話の授業がたくさんあったので、とにかくとれるだけとって、一年の春休みにアメリカ創価大学の語学研修に参加したんです。すると、『あつ、こんなに話せるようになってる!』と、自分でも驚くほどしゃべら

れるようになっていて、うれしかったです」

英語検定、国連英語検定など、検定試験にも片っ端から挑戦し、語学力を磨いた。短大時代に得たものはそれだけではない。

Maeda Asuka

「友だちと大ゲンカしたり、先輩が親身になって相談ののってくれたり、人間関係を通して、本当にいろんなことを学びました」

卒業して金沢に戻ったときは、まわりが驚くほど人が変わったという。「肩の力が抜けたっていうか、素直になっただけっていうか、家族

や生まれた土地から離れて、ゆっくりと自分を見つめることができたっていうことでしょうか。中身の濃い二年間だったと思います。だから進学の相談を受けたりすると、短大はいいよ、って言ってます」

二〇〇五年に創立二十周年を迎えた創価女子短期大学は、就職率がほぼ毎年100%の高さにあり、少子化の中にあつて志願者は年々増える傾向にあるという。その資格取得への支援システムは、文部科学省の「特色ある大学教育支援プログラム」にも選定された。

短大時代、前田さんの仲の良かった友人は、一人は歌の勉強のためにニューヨークへと旅立ち、一人はロンドン在住、そして、もう一人は創価大学に再入学して心理学を勉強中と、それぞれの道を歩んでいる。

「私も、パーソナリティーとしてもっと力をつけて、番組を聴いてくださるみなさんに、少しでも多くの『元気』をお届けできるようにになりたいと思っています」

—学生のための大学—



創価大学
創価女子短期大学

〒192-8577 東京都八王子市丹木町1-236
Tel.0426-91-9480 http://swc.soka.ac.jp/



Soka Report | 創始者の軌跡

平和・文化・教育の世紀へ ④

創価大学の創始者である池田大作SGI会長は、世界の平和を訴え、多様な文化へ理解を求めて、米ソ両陣営の緊張が高まった1960年代から、ヨーロッパ統合の父・カレルギー伯をはじめ、現代化学の父・ポーリン

グ博士、ローマクラブの創始者・ベッチェイ博士など、世界各国の指導者やさまざまな分野の学識者たちと1600回を超える対話を重ねてきた。1993年に対談を行ったハーバード大学名誉教授で『不確実性の時代』な

どの著書で知られる経済学者ガルブレイス博士(写真は、「池田会長の『対話する精神』に平和への魂を感じる」と語っている。なお、ガルブレイス博士との対談集は2005年、『人間主義の大世紀を』と題して出版された。